

「ガーナの今」と「名古屋の未来」

所属	名古屋市立丸の内中学校	実践者	河村 有紀 (G)
対象	中学3年生	時間数	6時間
場所	ランチルーム、教室	実践教科	総合的な学習の時間、英語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの人々やその生活に興味をもち、自分たちとの同一性・多様性を肯定的にとらえる。 ・ガーナで活躍する日本人の活動とその課題を知り、持続可能な支援の在り方を考える。 ・自らが生活する地域の良さと課題を考え、よりよい未来を主体的に築くための生き方を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【こんなところに河村先生！ in ガーナ】 ・班(4人1組)でガーナクイズ(生活・食べ物・学校・服装)に答える。 ・ガーナから持ち帰ったもの(楽器・本・お金・服など)に触れる。	○スライドショー 実物教材
	2	【ガーナと日本 あっていい違いといけないうち】 ・班ごとで付せんに「ガーナと日本に共通していること」と「違うこと」を記入し、全体で共有する。 ・「違うこと」の中で「あっていい違い」と「あってはいけないうち」に分け、気付いた事をワークシートに書く。	
	3	【貧困って負のスパイラル?!】 アイスブレーキング ~これがなかったら生きていけない! ~ ・ガーナの課題を知り、貧困問題が根底にあることを知る。 ・「貧困の輪」の活動から、貧困は負の連鎖であることに気付く。 ・連鎖を断ち切るための持続可能な手立てを付せんに書く。	○スライドショー 「貧困の輪」カード ユニセフのHP
	4	【ガーナの人々に温度計を届けたい!】 アイスブレーキング ~ガーナへのお土産にするならこれ! ~ ・ガーナで活躍する日本人の活動とその課題を知り、自分たちならどのような支援をするのか考え、提案する。 ・教師海外研修チームが行った支援を知り、話し合う。 ・「支援」に大切なことを話し合い、ランキング形式で発表する。	○スライドショー JICA のHP
	5・6	【10年後の「理想の名古屋」を自分たちの手で!】 アイスブレーキング ~名古屋名物と言えば? ~ ・自分たちが住んでいる地域(名古屋市)の良さと課題を挙げる。 ・「理想の名古屋」を考え、その実現に向けて、自分たちにできることを話し合う。 ・「理想の名古屋」を絵の形で表現し、発表する。	○名古屋市のHP
成果	写真や実物に触れたり、教師の話を聞いたりすることで、ガーナに親近感をもち、多様な価値観を尊重することができるようになった。支援は持続可能であることが大切だと気づき、自分たちができる支援を考えることができた。地域の良さと課題を再認識することで郷土愛が深まった。		
課題	ガーナへの持続可能な支援の方法を考えることができたものの、自分たちが住む地域の未来を築くために必要な支援や生き方を考える活動が不十分であった。遠い国の話にとどまらず、自分たちのこととして捉えられるように、今後も継続して実践する必要がある。		
備考	実際に見て、歩いて、触れて、味わって、交流してきた人の話は伝わりやすいと感じた。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「こんなところに河村先生！ in ガーナ」

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナクイズ…ガーナの写真を見たり、教師の解説を聞いた
りしながら、4人一組でクイズに答える。クイズは都市部と農村
部の特徴・家・料理・服装や髪型・学校・子どもたちの夢ラン
キングなどに関するもの。〈教材1〉クイズの一例は以下の通
り。
Q:男の子は頭の上に何を乗せている？→A:水の入ったたらい
Q:農村部〇〇はないけど、□□はある。→A:電気・携帯
Q:主食の一つ Fufu は日本の何に似ている？→A:もち
Q:子どもたちの夢ランキング1位は？→A:医師・看護師
- ② 実物教材に触れる…ガーナで購入したり、JICA から借りたりし
た物に触れる。〈教材2〉

この時限のねらい

ガーナがどんな国で、ガーナの
人々、特に同世代の子どもたちが
どんな生活をしているのか、イメー
ジを膨らませ、関心をもたせる。



【ガーナクイズ】

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 生徒は未知の国で暮らす人々の生活に想像力を膨らませ、楽しそうに話し合い、答えを考えていた。
- ◇ 反応が一番大きかったのは、雨が降ると学校も会社も休みになること。雨の日は家から出ないという風習をうらやましいと感じたようだ。また、Fufu やプランテンの写真を見て「食べてみたい」という声があった。
- ◇ 主な生徒の感想は以下の通り。

ガーナの人はオシャレで、スタイルがいい/携帯依存症、私と同じ！/携帯を充電するのに街に行かなければ
ならないことに驚いた/高校へ進学できる人の確率の少なさに驚いた/頭、平らなのか？バランスがすごい/教
科書やテレビでやっているより豊か/右手だけで食べることに感心した/シャワー室が外にあることが考えられ
ない/ガーナ料理を食べてみたい/生徒の目がすごく輝いていた

- ◆ 正解を発表するたびに歓声があがり、自分たちとの共通点や違いに関心をもっている様子であった。
- ◆ ガーナに対するイメージが大きく変わった生徒もいた。都市部には予想以上にビルや車が多く、日本と変
わらない商業施設があることに驚いていた。感想にも「ライオンやキリンが歩いているイメージだったが、日
本と変わらなかった。」「ガーナやアフリカは貧しくてかわいそうだと決めつけていたが、写真に写っていた
人たちはみんな笑顔で楽しそうで嬉しかった。」など、自分に固定観念があったことに気付くことができた。
- ◆ 授業を終えて「ガーナに行ってみたいですか？」という質問に42人中39人が「はい」と答えた。「いいえ」と
答えた3人の理由は「暑そう、怖そう、食事が合わなさそう」であった。「もっとガーナのことを知りたい」と書
いた生徒が多く、関心をもたせることができたと考える。

3 使用した教材

<教材1>平成26年度教師海外研修受講者が収集した写真

<教材2>実物教材:地図、楽器(太鼓・アサラド)、洋服、絵本、国旗など

2 時限目「ガーナと日本 あっていい違いといけない違い」

1 子どもの活動の流れ

- ① 共通点と相違点を付せんに書く<対比表>…4人一組でガーナと日本の「同じ所」と「違う所」を声に出しながら付せんに書く。分かりやすくするために色分けする。
- ② 違いをさらに分類し、発表…班で話し合いながら「違う所」を「あっていい違い」と「あってはいけない違い」に分類し、全体に発表する。
- ③ あってはいけない違い→ガーナのもつ課題…「あってはいけない違い」はガーナのもつ課題であり、それに対して多くの日本人が支援していることを知る。また、貧困が課題の原因の一つであることに気付く。

この時限のねらい

ガーナと日本の共通点と相違点に着目し、多様性を尊重する心を養う。また、貧困や格差などによる違いがあることに気付かせ、自分たちの暮らしと比較させる。



【ガーナと日本 対比表】

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナの人が「新しいことに臆病な傾向がある」ことを知り、「自分と同じだ」と嬉しそうに話す生徒もいた。また、思っていたよりも共通点が多いことに驚いていた。
- ◇ 生徒の主な分類や意見は以下の通り。

{ 同じ所…笑顔、歯が白い、民族衣装を着ていない、携帯依存症、お餅みたいなものを食べる、都会と田舎の格差、なりたい職業等。
 { 違う所…みんな夢をもっている、学校に電気がない、道路が少なくガタガタ、毎日同じようなものを食べている、学校の運動場が凸凹、物が少ない、子どもは家の手伝いをたくさんしている等。
 { あっていい違い…肌の色、右手と左手に役割がある、頭に物をのせて運ぶ等。
 { あってはいけない違い…子どもが物売りをしている、高校に行けたり、夢を叶えられたりする子どもがほとんどいない、水が貴重(水汲みをしないとイケない)、外にシャワーがある等。

- ◆ 田舎は電気や水道が整っておらず、学校の数も少ない状況を知り、「都会と田舎で食べ物や家の格差がある」と格差の実態を実感することができた。
- ◆ 「日本より物が少ないのに、ガーナ人はそれで普通に暮らせる」「貧しくてかわいそうだというイメージがあったが、みんな笑顔で楽しそう」と、自分とは違った価値観や生き方があることに気付くことができた。
- ◆ 「外にシャワーがある」違いについては、あっていい違いに分類した班とあってはいけない違いに分類した班があった。それが文化による違いなのか、格差や貧困による違いなのか、解釈や原因によって、分類が分かれることを伝えた。班の中でも意見が分かれることもあり、広い世界にはさまざまな文化や価値観があり、お互いの価値観を尊重することが大切であることを学ぶことができた。
- ◇ 活動を終えての主な生徒の感想は以下の通り。

・僕らから見れば、僕たちの方が幸せでガーナ人はかわいそうだと思うけど、彼らから見れば、彼らを感じている幸せは僕らと同じで、彼らの幸せのモノサシは違うものなんじゃないかと感じました。
 ・教科書に書いてあることを鵜呑みにするのではなく、いろんな視点から見て理解したいと思いました。
 ・ガーナのことをすごく勘違いしていたことに気づけてよかった。想像とまったく違っていた。
 ・私も先生のように、日本の文化を伝えたり、ガーナの暮らしをもっと知りたいからガーナに行きたい。

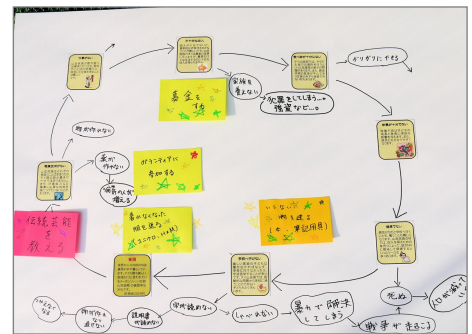
3 時限目「貧困って負のスパイラル?!」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング…4人一組で、1人30秒ずつ「これがなかったら生きていけない！」という物を理由とともに発表する。他の班員は、相づちは打っていいが、否定的な反応はしないルール。
- ② ガーナの課題をふり返る…前時の対比表を見て、ガーナの生活について思い出す。ガーナの厳しい現状が伺える写真を見て、その課題を確認する。(教材1)
- ③ 「貧困の輪」…班ごとに貧困によって起こる状況を示すカード(学校へ行けない・職業技術がない・健康でない等)12枚を、それぞれがどのような因果関係でつながっているのかを考え、原因から結果の順にカードを並べ、矢印を書く。(教材2)
- ④ 貧困を放っておくとどうなるか考える(派生図)…貧困によって起こる状況をそのまま放っておくと、どんな事態に発展していくのかを話し合い、派生図を書く。
- ⑤ 負のスパイラルを断ち切るための支援を考える(ギャラリー方式)…貧困の悪循環を断ち切るための持続可能な支援を考え、付せんを書いて貼る。次に席を離れ、他の班の支援方法を見て回り、よいと思う支援に☆印を記入する。席に戻り、自分たちの班の☆の多かった支援を全体に発表する。さらにユニセフが行っている支援を知り、自分たちの考えと比較する。

この時限のねらい

貧困の負の連鎖を理解し、その悪循環を断ち切る手立てを考える。また、貧困をなくすためには先進国の支援が必要であることに気付かせるとともに、自分にできる持続可能な支援を考える。



【貧困の輪 派生図と支援】

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ はじめはどの班もカードを横一列に並べていたが、両端のカードの因果関係を問うと、円形になることに気がつくことができた。
- ◇ 今の自分たちにできる支援として「募金活動」が一番多かった。
- ◆ 派生図をどんどん広げるうちに、貧困を放っておくと、健康が脅かされたり、物価が高騰して物が手に入りにくくなったり、戦争が起こったりして、自分たちの生活にも大きな影響を及ぼすことを実感したようだ。
- ◆ 活発な話し合いの中で、自国だけでは負の連鎖から抜け出すことができないという結論に至り、それを断ち切るには、先進国が協力して、計画的に支援することが必要であると気付くことができた。
- ◆ 「農機具を寄付する」と提案した班に「機械が壊れたらどうなる？」と投げかけると、物やお金の支援をするだけでなく、技術や教育を支援する必要があることに気付き、持続可能な支援を考えることができた。



【はじめはカードが横一列に】

3 使用した教材

<教材1> ガーナで収集した写真(ゴミが散乱している街、電気や窓ガラスのない学校、物売りをする子等)

<教材2> (公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来活用マニュアル Vol.2』(6.貧困 第2回)

4 時限目「ガーナの人々に温度計を届けたい！」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング…4人一組で、1人30秒ずつ「ガーナへのお土産にするならこれ！」という物を理由とともに発表する。
- ② ガーナの農村部で活躍する青年海外協力隊の活動と課題を知り、支援の方法を考える…概要：青年海外協力隊として活動する M さんは廃棄されてしまうオレンジをジャムに加工して、商品化するための支援を行っている。ガーナ現地研修中、ジャム作りには不可欠な温度計が現地では手に入らず困っている

ことを知り、教師海外研修チームは日本から温度計を送ることにした。しかしその過程で、温度計の入手方法や送料、持続可能な支援なのか等の問題点が浮上し、以下のような意見が出された。

- (ア) 2本しか確保できなかった温度計をガーナに送る
- (イ) 費用を寄付し合って温度計を必要数購入し、ガーナに送る
- (ウ) 温度計は送らず、他の方法を考える

この内容を参考に、自分たちならどのような支援をするのかを話し合い、班で意見を一つにまとめ、理由とともに全体に発表する。

- ③ 「支援」に大切なことを話し合い、発表する…持続可能な支援を行ううえで大切なことを話し合い、3位までのランクをつけて、班ごとに発表する。さらにそれは、自分たちが周りの人とよりよい人間関係を築く際にも大切なことであることに気付く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 温度計の支援を話し合う活動は白熱した。持続可能な支援を考え、温度計を送るのではなく、ガーナにあるもので温度を計る方法を考える班が多く、柔軟な発想で支援の仕方を真剣に考える姿が見られた。
- ◇ 受講者たちが送った温度計の中に、自分たちの学校から寄付されたものがあると知った時、教室が歓声に包まれた。また、ガーナで温度計が実際に使用されている写真を見たときにも感動の声があがった。自分たちが使っていた温度計がガーナの人たちの役に立っていると知り、母校に対する愛着が増したようだ。
- ◆ 「支援に大切なこと」として発表されたのは、「相手を思う心」「相手の立場に立つ」「一緒に物事を考える」「すべての人に平等にする」「これから先の未来につなげる」「助け過ぎない」など、自己満足に終わらない、相手の気持ちを考えた支援であったため、生徒たちに持続可能な視点が浸透していることを感じた。
- ◆ 発表の後、各班の共通点や気付いたことを尋ねると、「ガーナの人に対してだけでなく、周りの人に対しても大切なこと」という意見が出た。クラスメートとよい関係を築くうえでも大切なことだと気付くことができたことが伺える。活動を終えての主な生徒の感想は以下の通り。

- ・先生方の3つの意見すべてに共感できた。「支援」って考えれば考えるほど難しい。
- ・人の心がつながって、たくさんの笑顔になる。ガーナの人たちが笑顔でうれしかった。
- ・温度計について真剣に議論した大人の姿がかっこよかった。自分も将来、人の役に立ちたい。
- ・物を買って物資を送ることは、支援ではないと考える人もいたことに驚きました。
- ・物を買うだけでは支援にならず、その後どう活用するかが大切だと思った。

この時限のねらい

ガーナで活躍する日本人の話をきっかけに、持続可能な支援を行ううえで大切なことは何かを考える。また、それこそが、自分たちがよりよい人間関係を築く際に大切なことでもあることに気付かせる。

5-6 限目「10年後の『理想の名古屋』を自分たちの手で！」

1 子どもの活動の流れ

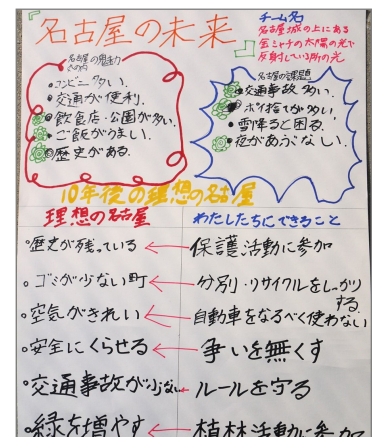
- ① アイスブレーキング…4人一組で、1人30秒ずつ「名古屋名物と言えよ？」思い浮かぶものを理由とともに発表する。
- ② 自分たちが住む地域の良さと課題を挙げる〈対比表〉…ガーナや他の都道府県と比べながら、名古屋の良さと課題を箇条書きにする。
- ③ 10年後の『理想の名古屋』を考え、その実現のために自分たちができることを考える…②の中から「残したい名古屋」と「変えたい名古屋」を厳選し、さらに自分たちが思い描く『理想の名古屋』を付け加え、その実現のために自分たちができることを書き出す。
- ④ 10年後の『理想の名古屋』を絵の形で表現し、掲示発表する

この時限のねらい

自分たちが住んでいる地域(名古屋市)の良さと課題を踏まえ、10年後の『理想の名古屋』を実現するためにできることを考える。また、地域社会を支えるのは自分たちである自覚をもたせ、将来の進路につなげる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 名古屋の良さを話し合った際、「名古屋出身の有名人がいる」「名古屋名物おいしい」といった、国内で比較した時の良さにとどまる意見が多かった。そこでガーナの生活と比較し、自分たちは「あたり前」と思っていることも、他の国と比べると「良さ」であると補足した。また「教育・医療・環境」などのキーワードを与えると「水がおいしい」「進学先が選択できる」「交通機関が発達している」「歴史がある」などの意見が出された。
- ◇ 課題については「コミュニティの希薄化」や「少子高齢化」などが挙げられた。名古屋市が実際に取り組んでいる課題と比較させると自分たちが出した意見と共通するものが多いことがわかった。〈教材1〉
- ◇ 「理想の名古屋」とそれを実現するために自分たちにできることは何かを話し合った結果は以下の通り。
 - ・安全、平和に暮らせる←争いをなくす。日本は戦争をしない。
 - ・交通事故が少なくなっている←一人一人がルールを守る。みんなに呼びかける。
 - ・歴史的建造物や伝統文化が残っている←保存のための寄付をする。伝統芸能を見に行く。
 - ・空気や水がきれい、緑が多く美しい環境←ゴミを減らし、分別・リサイクルに心がける。保全活動に参加。
 - ・外国の方も安心して暮らせる←外国語の看板を増やす。英語を勉強する。
 - ・高齢者にも優しい←近所で「助け合いグループ」を作り、いくつかの家庭で協力して生活する。
- ◆ 「理想の名古屋」を実現するために、社会の一員としてできることを広い視野で話し合うことができた。
- ◆ 絵の中に高齢者の手をひく若者を描く班があり、社会を支えていくのは自分たちだという決意を感じる事ができた。
- ◆ 感想の中に「将来、人の役に立つ仕事がしたい」「弱い立場の人に光を与えられる仕事がしたい」「青年海外協力隊に参加したい」と書いた生徒がいて、進路を考えるきっかけになったことを実感することができた。



【10年後の理想の名古屋を考える】

<教材1>名古屋市公式ウェブサイト市政情報

■ 全体を通して

私は教師海外研修に参加して、青年海外協力隊やシニアボランティア、また専門家の方々が現地の方たちに寄り添って支援活動をされ、現地の方から信頼されている姿を目の当たりにし、心を動かされた。たくさんの誇れる日本人が世界中で活躍されている姿を、日本の生徒に伝えなくてはならないと強く感じた。また、無限の可能性を秘めた生徒たちに、広い視野をもって進路を選択してもらいたいと思い、本実践を行った。「支援」に大切なことは、何よりも相手の立場に立ち、共に課題を考え、取り組むこと。「遠いガーナのことを考えることは、隣に座っているクラスメートのことを考えることと同じ。」ガーナでの研修を通して、私自身が学び、生徒に考えてほしいと思ったことである。この春に中学校を卒業し、新しい世界へはばたく生徒たちが、名古屋で、そして世界で活躍してくれることを楽しみにしている。

1 授業の様子

<写真1> 温度計支援を真剣に話し合う生徒



<写真3> 日本の温度計がガーナで役に立った



<写真2> ホンモノに触れる生徒



<写真4> 支援に大切なことを発表



2 参考文献・資料

- 1) (公財)愛知県国際交流協会
『世界の国を知る・世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来活用マニュアル Vol.2』
- 2) (公財)名古屋国際センター・独立行政法人国際交流基金『国際理解教材マンガジア』
- 3) JICA ウェブサイト 4) 日本ユニセフ協会ウェブサイト 5) NIED・国際理解教育センターウェブサイト